

**学校法人藤ノ花学園
豊橋創造大学短期大学部
機関別評価結果**

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

豊橋創造大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 藤ノ花学園
理事長名	伊藤 昭彦
学長名	後藤 圭司
A L O	千賀 博巳
開設年月日	昭和 5 8 年 4 月 1 日
所在地	愛知県豊橋市牛川町字松下 2 0 番地 1

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
キャリアプランニング科		150
幼児教育・保育科		100
	合計	250

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	福祉専攻	20
	合計	20

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

豊橋創造大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 18 年 7 月 1 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神は、二宮尊徳の生活信条である「至誠・勤労・分度・推譲」に基づいた「誠をもって勤儉譲を行え」であり、明治 35 年の学園創立以来受け継がれている。当該短期大学は、この建学の精神のもとに昭和 58 年に幼児教育科、秘書科として創設され、その後の改組転換を経て、幼児教育・保育科、キャリアプランニング科、専攻科福祉専攻として現在に至っている。

当該短期大学の両学科および専攻科は、この建学の精神のもと、それぞれの教育目的に即して教育課程が体系的に編成されている。その教育課程の内容は充実しており、時代の要請にかなっている。また、教育の実施体制もしっかりと確立している。教員組織としては、教授会、科会、常任委員会、特別委員会などが組織され、事務局として部課長会、課会などが組織されている。さらに、教育環境は、校舎、校地ともに短期大学設置基準を充分上回る面積を有しており、充実している。

当該短期大学では、学生の単位取得状況は良好であり、学生の授業理解度は一定の水準に保たれている。また、各種資格試験合格への対応も良好で、特に医療秘書検定などでは優秀な成果がみられ、教育目標の達成と教育効果が表れている。

また、学生に対する支援対策としては、「入学準備学習」、「新入生・2 年生ガイダンス」などを通して、学生の学習準備が充分に行われるように取組みがされている。さらに、学校法人藤ノ花学園奨学生制度などが設けられており、意欲的に勉学に励む学生を積極的に支援している。

さらに、当該短期大学では、多くの教員が地域団体の委員などとして貢献しており、その社会貢献度は大きい。学生も非常に多くの地域行事に参加するなど、社会活動に積極的に取り組んでいる。特に「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）」の採択を受け、全学科教員共同参画による地域社会を取り込んだ活動を継続的に実施している。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神が「誠を持って勤儉譲を行え」と確立しており、明治 35 年の学園創立以来一貫して受け継がれている。特に、当該学校法人全体として、高等学校、短期大学、大学にわたり、統一的に建学の精神に基づいた教育を実践している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 奨学生特別入試、藤ノ花学園奨学生制度は学力が優秀な学生の生活を支援するものであり、学生のレベルアップにも貢献している。
- 成績評価を教員がパソコンで入力でき、評価分布を学生がパソコン上で見ることができるのは学生の自己学力の認識に役立っている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 多くの教員が地域団体の委員などとして貢献しており、社会的活動に対する関心の高さと貢献度は高い。特に平成 18 年度は、現代 GP に採択された「食をテーマとした地域活性化」に関連して、短期大学部全体で地域貢献活動を展開している。
- 学生も多くの地域の行事に参加するなど、地域活動に積極的に取り組んでいる。さらに、学長賞の表彰カテゴリーの一つに、ボランティア活動などの地域への積極的な貢献が含まれている。
- 地域が求める人材供給に的確に応じ地域社会への貢献を果たしている。地元自治体との包括協定締結、構内図書館施設にはキャリアセンター、地域貢献センターが整備されている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 学生を重視した短期大学の管理運営に充分配慮し、大規模な学生駐車場確保、コンピュータ学術情報基盤整備の促進、厚生補導諸施設配置、キャンパス施設整備、をはじめ学外においては地域行事への学生ボランティア派遣などがされている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 年次報告書が平成 4 年度から毎年発行されており、改革・改善のための努力がみられる。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅴ 学生支援

- 全教員が年 1 回以上の公開授業を行い教員同士の意見交換を行うなど教育改善に努力しているが、授業評価など記録に残すことが望ましい。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究費については充分配慮されていることから、さらなる研究活動の活性化が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項
なし

3. 領域別評価結果

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神は、二宮尊徳の生活信条である「至誠・勤労・分度・推譲」に基づいた「誠をもって勤儉譲を行え」とされ、明治35年の学園創立以来受け継がれている。また、教育理念は教育基本法第1条（教育の目的）と学校教育法第69条の2に基づいている。「幼児教育・保育科」および「キャリアプランニング科」では、それらを具現化した教育目標をそれぞれ設定している。「幼児教育・保育科」では、表現力や実践力の高い保育士・幼稚園教諭の養成をめざしており、「キャリアプランニング科」では、健全な職業観や就業意識を育成するとともに、時代の要請に沿った職業教育を施すことをめざしている。両学科ともに、これらの教育目標の実現に努力している。また、両学科ともに、定期的に教育目標の点検を実施しており、これまでに、時代の要請に応じて学科改組や専攻科の設置などを行っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

「幼児教育・保育科」、「キャリアプランニング科」、「専攻科福祉専攻」において、それぞれの教育目的に即して教育課程が体系的に編成されている。「幼児教育・保育科」では、保育士・幼稚園教諭二種免許状の課程科目のほかに、教養科目も設置されている。「キャリアプランニング科」では、調理師免許取得のコースを設置しているほか、医療秘書検定・簿記検定・各種情報関連検定など多岐にわたる資格取得のためのユニットが設けられている。「専攻科福祉専攻」では介護福祉士資格取得課程が設けられている。いずれの学科もその教育課程の内容は充実しており、時代の要請にかなっているものである。

また、両学科とも教養科目を設置しており、短期大学生としての基礎的な教養が身につくように配慮されている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

短期大学設置基準を上回る専任教員が配置されている。また、教員組織としては、教授会、科会、常任委員会、特別委員会、ワーキンググループなどが組織されており、事務局職員の組織としては、部課長会、課会などが組織されている。

教育環境は、校舎、校地ともに短期大学設置基準を充分上回る面積を有しており、教員研究室をはじめ、体育館、図書館、情報機器なども良く整備され活用されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

学生の単位取得状況は多くの科目が 90 パーセント以上の取得率を示しており、両学科、専攻科ともおおむね良好と思われる。また、出席を重視し、学生の授業理解度を一定の水準に保つようにしている。キャリアプランニング科の各種資格試験への対応もおおむね良好で、特に医療秘書検定などでは優秀な成果がみられる。就職先からの卒業生に対する評価は、個人差はあるものの、コンスタントに就職実績を上げていることからみても、地域の戦力として十分に評価されている。また、学園祭の折に来校した卒業生からのアンケートを取った結果、学習内容についておおむね良い評価が得られている。

平成 18 年度に採択された現代 GP は、「食をテーマとした地域活性化」を目的に「食農教育」、「食文化の伝達」、「福祉サービス」そして「災害時炊き出しボランティア」を 4 つの柱として、幼児教育・保育科、キャリアプランニング科そして専攻科福祉専攻の教員・学生を中心に授業科目で学んだことをいかして、地域の自治体などと協力して行われたものである。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学に関する支援では幅広い選抜方法を取ることによって多様な学生の入学を可能にしている。特に、奨学生特別入試は学力の秀でた学生の生活を支援し、リーダーシップを発揮する学生の育成に努めている。学習支援では入学前の準備学習が「スクーリング」と称されて行われ、入学時には基礎力調査が行われ学力が不十分な学生にはその対策が取られている。学生生活支援で特筆すべきは、「学校法人藤ノ花学園奨学生制度」と全学生の三分の一の自動車通学を可能にした立体駐車場と屋外駐車場の設置である。進路支援も教員が加わっている就職委員会、インターネットで 24 時間検索可能なシステムの導入によって学生の就職活動を支援している。障害者などへの支援も活発で、聴覚に問題がある学生にはノートテイカーが学生から募集され支援を行った例がみられる。

評価領域Ⅵ 研究

十分な研究費と研究日、個別に割り与えられた研究室と高度に整備された情報機器

によって教員は活発な研究活動を行っている。研究論文・研究成果を発表する機会は毎年発行される「豊橋創造大学短期大学部研究紀要」において確保されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

多くの教員が地域団体の委員などとして貢献しており、社会的活動に対する関心の高さと貢献度は評価できる。特に平成 18 年度は、現代 GP に採択された「食をテーマとした地域活性化」に関連して、短期大学部全体で地域貢献活動を展開している。

また、学生も地域からの依頼に基づいているとはいえ、非常に多くの行事に参加するなど、積極的に取り組んでいる。さらに、学生の地域活動も学長賞の表彰するカテゴリーの一つであり、学生に対して積極的にボランティア活動を推奨している。

社会人に対する職業教育として、エクステンション講座を開講しており、また正規課程の学生としても科目等履修生としても社会人の受入れを図っている。

しかしながら、海外教育機関などとの連携や海外派遣などに改善の余地がみられる。

評価領域Ⅷ 管理運営

「法人管理運営体制確立」では理事長のリーダーシップが発揮され、法人規程に準じおおむね適正な運営である。「事務組織」では組織運営規程により、事務局組織は事務局長を中心とした併設大学と短期大学で 1 組織、4 部 1 図書館の構成で、適正な事務処理はもとより、教員との円滑な連携や地域連携、学生サービスの充実・向上が図られている。「人事管理」では法定関係諸規程整備状況、学内諸会議審議状況を踏まえ、適正な管理が行われている。理事会構成員に正副学長が加わって、学校法人経営と短期大学現場との意思疎通は図られている。就業環境、勤務時間管理はおおむね良好である。

評価領域Ⅸ 財務

短期大学全体の入学者数は、平成 18 年度だけでみると定員確保状況に至らず、学部・大学院、附属学校を含めた法人全体でも定員確保が厳しい状況と思われる。特に、昨年新設の学部（「リハビリテーション学部」）が完成年度に至るまでの今後の 2 年間は厳しい状況が続くと思われる。しかしながら、学校法人全体で既設の学部、短期大学ともにここ数年で改組、改革に積極的に取り組んでおり、その成果が今後期待できると思われ、新設学部の完成とともに財務状況の改善が望まれる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価委員会の実施体制が確立して、改革・改善のための努力がみられると判断される。自己点検・評価規程を定め、それに準じて委員会を適切な形で、十分な人員を配置して構成し、年次報告書を平成 4 年度から毎年発行している。平成 17 年

度の年次報告書は短期大学基準協会の評価基準にそって作成されており、個々の基準に関して何が基準を充たしており、何が基準を充たしていないかがおおむね指摘されている。これを起点として平成 18 年度の自己点検・評価報告書が作成され、改革・改善のための努力がみられる。